

定期的な予防接種の実施により A 型肝炎発症率が史上最低レベルに

米国で 1999 年、A 型肝炎発症率（人口 10 万人当たりの人数）が平均よりも高い 17 州の小児に対し、定期的な予防接種が推奨されました。予防接種の効果を見るため 1990～97 年の平均発症率と 2003 年時点の発症率を比較したところ、予防接種が実施されなかった州の平均は 5.7 人から 2.7 人になり、低下率は 53%、予防接種が推奨された 17 州の平均は 21.1 人から 2.5 人へと激減し、低下率は 88% でした（表）。

この結果、2003 年の米国の A 型肝炎の発症率は 2.6 人と過去最低レベルであり、現在も低下傾向は続いています。

表 1999 年以降の予防接種による A 型肝炎発症率の低下率

	発症率の低下率
定期的な小児への予防接種が行われていない州	53%
定期的な小児への予防接種が行われている州	88%
米国全体	76%

* Data Source: A. Wasley, T. Samandari, and B. P. Bell, "Incidence of Hepatitis A in the United States in the Era of Vaccination," *Journal of the American Medical Association* 294, no. 2 (2005): 194-201